

こほくとしょかん

江北図書館だより

<発行> 公益財団法人 江北図書館

2017(平成29)年2月15日 発行

〒529-0425 長浜市木之本町木之本 1362

☎・fax :0749-82-4867

第15号

ホームページ : <http://www.geocities.jp/kohokutoshokan/>

開館時間 午前 9:30~午後 5:00 (日曜日は午後 2 時まで) 休館日 毎週月曜と第1・3日曜祝日

江北図書館文庫研究会フォーラム開催のご案内

江北図書館は、所蔵する貴重な図書や地域の歴史的な資料が、2年前滋賀大学経済経営研究所に移管されることになったのを機に、「江北図書館文庫研究会」を立ち上げ、貴重な史資料の調査・研究を始めました。昨年は3月に「江北図書館文庫研究会フォーラム」を開催し、地域の皆さんに研究成果を報告しました。本年も、下記の要領で研究会フォーラムを開催し、多くの方々に、「江北図書館文庫」の価値を発信し、今後の地域づくりなどに役立てていただきたいと思います。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

サントリー文化財団助成研究

「江北図書館から見る地域の文化と歴史」

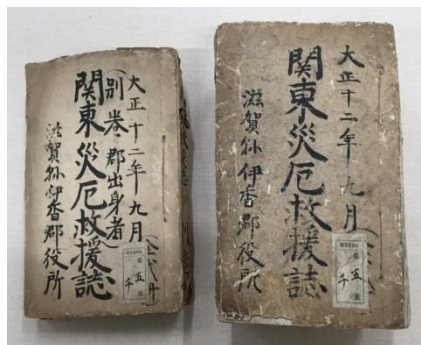
日時 平成29年3月25日(土) 午後1時30分~午後4時

会場 公立木之本公民館 3階集会室 長浜市北部振興局建物内 (入場無料)

内容 研究発表と質疑

- ① 明治期の小学校開設の状況
- ② 伊香相救社の特徴的役割
- ③ 江北図書館への寄附・寄贈
- ④ 伊香農学校の県立移管

進行は筒井正夫 滋賀大学教授



主催:江北図書館・江北図書館文庫研究会

問合せ先:江北図書館

江北図書館文庫の資料から見えてくる

伊香高の歴史を見守り続けた

「土功碑」誕生の物語 その②

江北図書館文庫研究会・江北図書館評議員 河下 太勇

前号では、伊香農学校が県立に移管されるにあたり、大正 11 年の開校前後足掛け 2 年の月日を要して、郡民挙げての土功（整地作業）が行われた様子を紹介しました。

伊香郡役所は、伊香郡民「三万一心」のこの一大事業を顕彰する石碑「土功碑」の建立の準備を始めます。滋賀大学に保管されている江北図書館文庫の「伊香郡志関係史料 256 初稿土功紀」には、碑文の初稿と思われる史料が残されています。日付は大正 12 年 7 月 1 日となっており、その撰（碑文作成）には当時の郡長松原五百蔵の名が記されています。その原稿では、土功は同年 6 月 28 日に完成したと記されていますが、実際には、その約 2 ヶ月後の 8 月 31 日でした。郡長周辺は、夏までに工事を終わらせる計画で、比較的早くに原稿の準備もしていたようですが、結果的に工期がずれ込んだことが伺えます。

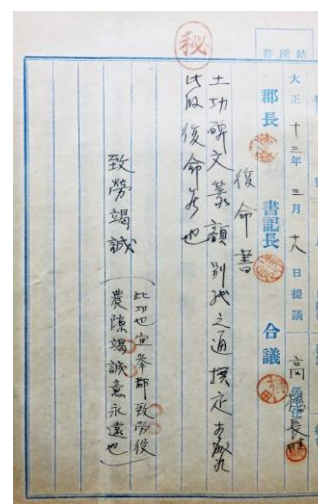
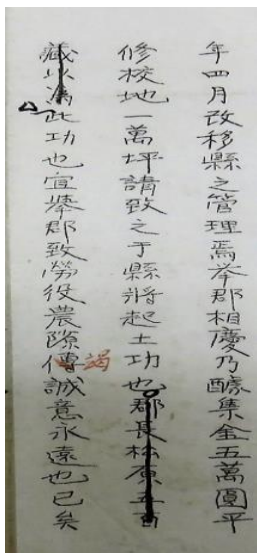
このように碑文の準備は、土功とほぼ並行して行われ、途中何度も推敲が重ねられます。この経緯は、同じく江北図書館文庫「伊香郡志関係史料 401 碑文」「伊香郡志関係史料 624 土功碑」「伊香郡役所文書 学事 31 大正 13 年 3 月 碑文一式書類」をひもとくことで見えてきます。撰文も初稿では松原郡長の名前でしたが、最終的には滋賀県知事堀田義次郎となりました。堀田知事は、松原郡長とも懇意で、土功途中の大正 11 年 10 月 6 日に現地も視察していますが、実際の碑文の作成には、知事の紹介で、越前出身の漢学者、当時大津在住の坪井咬菜なる人物が関係していたことが、資料からわかってきました。

松原郡長の名前が削除された原稿
「傳」の文字が「竭」に推敲され篆額に引用された

残されている郡長との手紙のやり取りを見ると、この人物は、撰文は郡長でない方がよいことを示唆したり、京都の石工を紹介したりして、土功碑建設にも積極的に関わっています。

また、石碑の題字にあたる「篆額」には、碑文の一節「致労役農隙竭誠意」から「致労竭誠」（真心を尽くしてどこまでも労働奉仕する意）の文言が引用されています。土功の精神を端的に表す良い言葉だと思いますが、原稿にこの言葉が用いられたのも最終段階、引用決定も、大正 13 年 3 月 18 日のことでした。

この頃、京都の石工と契約が結ばれ、急ピッチで石碑の制作が進められていきます。そして、大正 13 年 11 月 2 日に、前述の堀田氏と坪井氏も列席し



篆額決裁の郡役所内の文書 ㊦の文字もある。

て、土功碑の除幕式が盛大に執り行われます。土功の立役者、松原郡長も前郡長として招かれています。石碑にその名が刻まれることはありませんでした。郡長の人物や見識をうかがわせるエピソードのような気がします。

次回はその碑を彫った石工と、郡役所内のもう一人のキーマンに焦点を当てて紹介してみたいと思います。

伊香高等学校創設 120 周年記念展示会を開催 (11 月 7 日～12 月 8 日)

本年は滋賀県立伊香高等学校創立 120 周年に当たります。当館はこれを祝し、滋賀大学に保管されている「江北図書館文庫」資料の中から、伊香高等学校の前身である伊香農学校が郡立から県立に移行する過程についての記録をミニ企画展として展示しました。

伊香郡に高等教育機関を残そうとする伊香郡長・郡会議員・村長たち、そして、熱い郡民の熱意がひしひしと感じられる企画展でした。

この展示会の模様は伊香高等学校のホームページにも記載され、同校を訪れた OB・OG 諸氏をはじめ、多くの方々にみていただき、郷土の歴史理解に 1 ページを加えることができました。



余呉小学校の4年生のみなさん

理事 新堂 正春

11 月 29 日余呉小学校 4 年生の 22 名が織田校長先生、担任の水谷先生とともに校外学習で江北図書館を見学に来てくれました。

古めかしい外観や玄関にちょっと驚いた様子で入館した子ども達は、富田館長から、創立 100 周年を越える歴史を持つ、滋賀県では最も古い図書館で、前身は余呉町出身の杉野文彌氏が東京で苦学し、弁護士となって活躍されるなかで、郷里のために図書館を設立するという志を立てて、余呉の地に杉野文庫を創設したのが始まりであることや、所蔵されている本の種類・冊数などの説明があり、子供達はメモを取りながら真剣に聞いていました。

その後それぞれ図書館内を見学し、好きな本の場所を探したり、興味のある本を手にとって読む



など自由に歩き回っていましたが、中でも杉野氏の子孫から寄贈され、現在図書館で保管している文彌氏の銅像（近々余呉小学校に移管される予定）には興味津々の様子で、なでたり、重さを試してみたり、銅像との記念写真に納まったり、おおはしゃぎでした。

見学中には、「古い本がよーけあるなあ」「将棋の本が見たいんやけど」「銅像はもっと大きいものだと思っていたが、割と小さいな」などと口々に感想を話していました。

知らなかった地域の偉人に出会った校外学習ではなかったでしょうか。

☆お知らせ☆

○ 図書の寄贈

『シェークスピア全集』全 40 巻

寄贈者 芦屋市 青木真一氏

昭和 8 年から 10 年にかけて発刊された坪内逍遙全訳の初版。美術品としても価値のある装丁で、江北図書館所蔵の貴重本に加え帯出不能本として大切に所蔵していきます。



シェークスピア全集

『昭和天皇実録』9 巻（全 19 巻の内）

寄贈者 長浜市 中澤成晃氏

平成 27 年より刊行の『昭和天皇実録』を刊行の都度に寄贈いただいております。

明治 34 年のご誕生から昭和 64 年のご崩御に至るまでの 89 年間の「激動の時代」を生きられた天皇の事跡、その間の日本の政治、社会、文化など余すところなく記述されています。そこにはこれまで知られていなかった昭和天皇の「生きたお姿」とその時代が生き生きと記されています。



昭和天皇実録

『図書券』

寄贈者 木之本ライオンズクラブ様

例年通り文化の日に寄贈いただきました。

○ 理事・監事の交代について

退任

新任

監事 東野 了（余呉町）→ 岩中 利秀（高月町）

理事 藤原 哲男（余呉町）→ 山内 博司（木之本町）

○ ホームページを開設しました

<http://www.geocities.jp/kohokutoshokan/>

今後内容の充実に向けてまいります。図書館の利用案内・図書の検索等にご利用ください。